

平成30年度 第2回安曇野市食育推進会議 会議概要（要約）

1	会議名	安曇野市食育推進会議
2	日時	平成30年10月1日（月） 13時30分 から 15時00分
3	会場	本庁舎 共用会議室305
4	出席者	本郷会長、堀内副会長、中野委員、豊田委員、福島委員、平林委員、堀内委員、 水野委員、田島委員、保高委員、渡邊委員
5	市側出席者	高橋保健医療部長、古畑健康推進課長、中澤センター長、久保田課長補佐、 上條管理栄養士、小松管理栄養士、斉藤管理栄養士、芝原歯科衛生士、北野主任
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成30年10月4日

会 議 事 項 等	
1	会議の概要
(1)	開会
(2)	会長あいさつ
(3)	保健医療部長あいさつ
(4)	協議事項
①	第2回安曇野市食育推進庁内検討委員会の報告について
②	安曇野市食育推進計画（第3次）（案）について
③	計画の期間について
④	その他
(5)	今後の日程（予定）
	11月下旬～12月下旬 パブリックコメント
	2月 第3回安曇野市食育推進会議
(6)	閉会
2	協議の概要
①	第2回安曇野市食育推進庁内検討委員会の報告について
(会 長)	異議なし
②	安曇野市食育推進計画（第3次）（案）について
(委 員)	起床時間と就寝時間の表現は、起床時刻・就寝時刻が正しい。
(事務局)	修正する。
(委 員)	「むし歯がない者の割合の増加」「咀嚼良好者の割合の増加」の目標値を現状より高値にしてほしい。
(事務局)	安曇野市健康づくり計画（第2次）と整合性をもたせるため同じ目標値にした が、検討する。
(委 員)	学童期・青少年期の食育指導年間計画の推進に弁当の日を入れてほしい。
(事務局)	弁当の日の推奨については、学校教育課から学校へ伝えていく。各学校で弁当の 日という形ではなく実施していることもあるので、そちらを推進してもらえれば よいと考えている。
(会 長)	弁当の日についての講演等、途切れてしまうと関心が薄れてくるので、いいことは 繋げてたくさんの方に聞いてもらおうといい。

- (委員) 調理師会の味覚の授業をもっと活発にできないか。使っている食材に外国産もあり、子どもに本物の味を教えられていない。ボランティアではあるが、農政課、学校教育課等と横の連携をとってもらい、食材の予算措置をしてほしい。
- (会長) やはり行政のサポートが必要。他自治体では市長に直接会って、中学2年生の血液検査に尿酸、HbA1c、ピロリ菌を入れてもらった事例がある。安曇野市でもいいことは市長に直接伝えたい。
- (事務局) 庁内検討委員会でご意見を伝えていきたい。
- (委員) 朝食欠食者は減少しており、わずかである。そして個別の対応が必要な子どもだと聞いているので、全体で取り組む問題ではないと思う。養護の先生からシリアルだけの朝食のお子さんが気になるという話もあったように、朝食の内容の充実を目標に入れて、取り組んでももらえればよいと思う。
- 「母親が自ら正しい判断ができる力をつけるとともに」とあるが、母親と限定しない方がよい。
- 弁当の日に合わせて、自分で食を選ぶ力、自分で食事を準備できる力を養うということ盛り込んでいけばよいと思う。
- 若年者保健指導、女性のやせの関係で、他自治体では、子育てが忙しく、健康診断を受けられない母親への取り組みを始めた。県の元気づくり支援金という補助金を活用して、乳幼児健診に合わせて母親の健康診断を行うというもの。
- (会長) 安曇野市は、色々拾ってきて取り組むのではなく、一番重要と考える独自のものを作らないといけない。
- 死因別死亡者のところに喫煙率が抜けている。
- 高血糖と高血圧の状況があるが、脂質異常症の状況がない。
- 肥満とやせの指標であるBMIが低栄養にすり替わっている。低栄養はアルブミンでみる。肥満の中にも低栄養がいる。
- 弁当の日も非常にいいと思う。
- 青年期は、一番啓発活動が難しい。一律にやるのではなく、コンビニ、ネット、IT関係等、20歳代が生活で一番利用しているものを利用するといい。他自治体では、そういうところを利用して健診のこと等を始めている。
- 生活習慣病といわれているメタボ、高血圧、糖尿病、脂質異常症、腎臓病等は、遺伝がかなり影響している。どういう人がなっているか、遺伝にも目を向けてほしい。
- 施策の(6)と(7)が前期高齢期の部分で重なっていることがわかりにくい。
- 新そばと食の感謝祭の取り組みで安曇野市にしかない位のを打ち出してほしい。そばはどこにでもあるので、わさびをもっと誇っていいと思う。料理方法、どう健康にいいのか等を出して、目指してほしい。
- (委員) そばと一緒にサーモン丼を売っている。サーモン丼も入れてもいいと思う。市が推奨しているりんごナポリタンもやろうとしている。
- (会長) 高齢化が進んで、10年、15年後にはフレイルが一番ありふれた言葉になる。フレイルになる前から対策しないとけない。先駆けとしてやってほしい。
- (事務局) 表現不足もあると感じた。市の特徴をアピールしたい。
- フレイル対策に関して、前期高齢者の重症化予防という点で介護予防まで取り組んでいきたいと思っている。
- (委員) 早寝・早起き・朝ごはんにアウトメディアの取り組みを加えてほしい。

(委員) 食品ロスについてどのような捉え方をしているか聞きたい。食べ物を無駄にしないというのはもちろんだが、野菜の皮等も料理して食べるということが食品ロスに繋がっていると考えるか。

(事務局) 施策に食品ロス削減の推進を上げている廃棄物対策課に確認する。

(委員) こ食の「こ」の字は、9通りある。忙しい保護者をあてにするのではなく、子ども自身に身につけてもらうように支援することが大事だと思う。高齢者の孤食もある。ランチメイト症候群が流行っているというのも聞くので、広報等で情報を流すといいと思う。

(事務局) 支援方法の中で参考にさせていただく。

(委員) 食育について日頃から意識している人は少ないと思う。食育推進会議で話し合われていることを市民に伝えることが大事だと思う。

(事務局) 食育推進計画を冊子にして配布したり、広報等で周知していく。

(会長) 若い人たちにどうやって伝えるかが課題。まず若い人たちの実態を聞くことからヒントが出てくると思う。

(委員) 若い人にとっては、朝ごはんなんてという気持ち大きい。わかりやすい情報提供が必要だと感じた。

(会長) 委員から出た意見が市民の意見そのままだと思う。それをどのようにして今後活かせるかということ。

③ 計画の期間について

(会長) 異議なし